

地区の新開に建っていたもので、春日のその土地を「燈籠地」と呼んでいる。このようにこの道は金毘羅参詣街道として賑やかだった。

三 現代の道

1 四国新道

明治以前の道は土木技術的な工法は配慮されておらず、明治になってはじめて計画的に道路が敷設されるようになった。その代表的なものが「四国新道」である。

四国新道は四国四県を結ぶ新しい道路として大久保謙之丞が計画したもので、丸亀・多度津の両港から金蔵寺・琴平を経て樺木峠・猪の鼻峠を越えて阿波池田に達し土佐の大杉を通って高知に延びる路線であった。のちに高知から佐川に出て須崎港に至る路線と佐川から松山を経て三津浜港に至る路線とが加えられることになった。この新道の延長は二八〇・三六一kmで、その内訳および工事費、着手竣工年月日等は表58のとおりであり、当時の人夫賃は朝早くから夕方遅くまで働いて日当一二銭、大工・石工で二五銭であった。

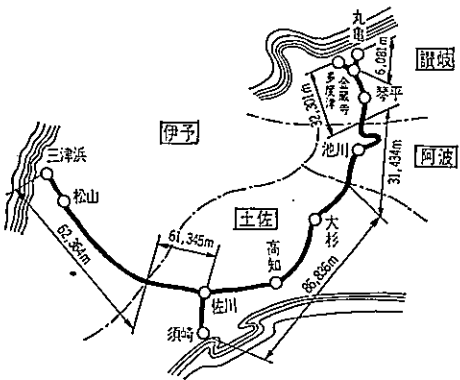
財田村の大久保謙之丞は東奔西走して有志と相謀って新道の建設に力を入れた。彼は家を留守にすることが多く、たまたま家に帰れば数十人の新道工事関係者が訪れ多くの接待費を必要とした。そして工事の終わろうとするころになって請負工事費の不足のために田畑・屋敷まで人手に渡して工事費を償った。

またこの四国新道工事に反対する者も少なくなかった。ある者は自分の屋敷や田畑が工事のために削りとられるので反対し、ため池を削少されるといって水利組合が反対したりした。我が仲南町でも宮田地区の久米池が削少さ

表58 四国新道総括表

国別	延長 m	事業費 円	着手	竣工	備考
讃岐	38,382	256,854	明治 19.4.7	明治 23.3	内丸亀—金蔵寺 6,081m
伊予	62,364		19.4.7	27.5	幅員はいずれも 4間—7間
阿波	31,434	78,000	19.3.25	23.3	
土佐	148,181	406,710	19.3.10	27.5	内佐川—伊予県界 61,345m
計	280,361	741,564			

図4 四国新道



れるというので水利関係者が反対運動を起こした。そしてこれらの反対者は道路工事の発起人ともいふべき大久保謙之丞を恨み、彼を馬鹿だ、狂人だとののしった。しかし謙之丞はますます意志を強固にし、叩かれれば叩かれるほど強くなって工事の完成に力を尽くしたが、明治二十四年(一八九一)二月一日、四二歳で死去した。四国新道は彼の死後数年を経て明治二十七年(一九一四)に完成した。

一〇〇年後の交通を見通した大久保謙之丞の慧眼と、ことに当たったの闘志と実行力はまことに偉大であった。琴平町の金山寺山の頂に、国道三三二号線を眼下に、高さ四・五mの銅像が建てられ、また彼の郷里財田町戸川にはその顕彰碑が建てられて彼の偉大なる業績をたたえている。

次にこの四国新道の起工式までの経過をたどると、明治一七年(一八八四)十一月一八日協力者の第一回会合が琴平の桜屋旅館で開かれた。その席上謙之丞は、「四国の産業、文化の発展は道路なくして成り立たない。新道開設こそ四国を一つに結び、南海の富強を図る根本施策である。」と強

調して、新道の計画を同志に訴えて協力を求めた。
 続いて第二回目の会合は同年一月二七日開かれ、路線実現のための請願委員五名と巡視委員三名が選ばれた。
 また同年二月四日詰之丞は同志の原藤司郎と二人で猪の鼻道の实地踏査に出発し、一日高知に到着した。こうして明治一八年(一八八五)二月二三日高知・徳島・愛媛の各県で四国新道開削の申し合わせが成立した。そしてさらに同年五月には、参事院議員官森有礼、田辺(高知)、酒井(徳島)、関(愛媛)の三県令が現地視察のため琴平に会合し工事予定地を巡視した。

こうしてすべての手続きを終わり、準備全く完了して、四国新道起工式が次のとおり盛大に行われた。

高知県、明治一九年(一八八六)三月二〇日、高知公園一の丸。

徳島県、明治一九年(一八八六)三月二五日、三好郡池田小学校。

愛媛県、明治一九年(一八八六)四月七日、琴平神事場(当時讃岐は愛媛県であった)。

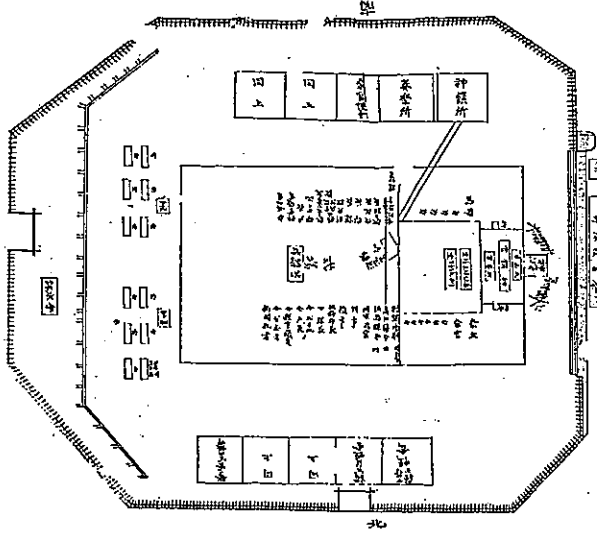
明治一九年(一八八六)四月一四日の『朝日新聞』は、琴平における起工式の状況を次のように報じている。

本月七、八日は、予記の如く讃岐国那珂郡琴平社内に於て、愛媛・徳島・高知の三県に亘れる国道の起工式を執行したが、高知・徳島・愛媛の三県令を始め臨場したる有志無慮五千余名の多きに及び、儀式を終るや狼煙(のろし)三発を合図に起工に着手し、工夫三〇名火薬を以て其の開削すべき国道に当る山の巖石を破砕し、喬木を倒す。その響き轟然雷の如し。其後昼夜煙花を打揚げ、或は東京、大阪合併の相撲、撃剣会又は軽氣球を放ち茶番手踊など種々の催しあり、就中、数万の観客が大喝采を得たるに、同国三野郡財田上、中両村の人民百余名、唱義隊と称し、将棋の戯れに模し、仮に道路開削を是とするものと、非とするものと二隊に分ち、双方の歩兵互いに争論をはじめ、桂馬は滑稽の演説をなし、金銀、飛角は交るがわる是れを討論し、非とする方はいに説破られて敵の論陣に降り、夫より総勢合して各手に鉄を執り踊りをなす。その歌は――

開けや拓け布多那人(ふたなびと)
 阿波、土佐、讃岐、伊予かけて
 面(おもて)四つ並ぶ国々を
 貫き通る新街道
 降をえりぬき巖を裂(さ)き
 登り降りの変なく
 火車、馬車、腕車、歩行人(あゆむひと)
 皆便利得て知懸進み
 海や陸(くぬが)の産物(うみもの)を称増(いやまし)
 し(繁殖(さかえ)将来は昇る旭と諸共に皇国(みくに)の光輝(ひかり)赫きて英仏魯米の国々に
 優る基本(もと)の此道を
 開けや拓け國富ます
 御道は斯道(このみち)可美道(うましみち)
 拓けや開けこの道を……



図 5



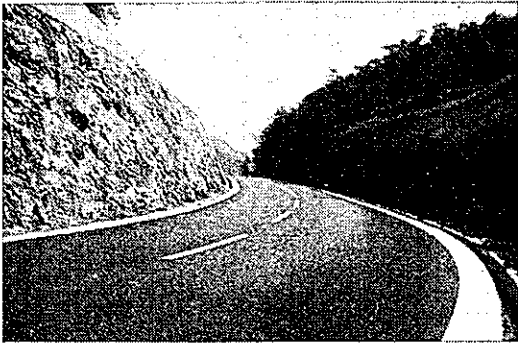
第一節 道路交通

2 国道
 三二号線 四国新道のうち讃岐の部分で讃岐新道と呼んだ。明治一八年(一八八五)二月、丸亀から鳥坂、本山、箕浦を通る伊予街道は国道一―号線と改称された。この国道

から分岐して、琴平を経て阿波に通じる阿波街道は交通量が伊予街道よりはるかに多いにもかかわらず国道に編入されなかった。阿讃の国境には幾多の峻峰が連なっており交通ははなはだしく困難をきわめ、相互に物資を交易するにもわずかに人馬の肩や背による以外に方法がなかった。そしてその不利不便は突に忍ぶにたえ難いものであった。大久保謙之丞らによって立てられた讃岐新道の計画は次のとおりであった。

讃岐新道計画書

- 延長 九里一七町四九間九歩
- 旧道延長 八里三二町
- 内訳
 - 一、三里二〇町 平路
 - 自多度津港 至那珂郡十郷村字坪ノ内 道巾四間 両側並木敷一間 濕拔溝巾五尺深三尺 内多度津琴平村市街九町三〇間並木敷を要せず 平均勾配一間に付三分三厘二毛上り
 - 二、二〇町 溪路
 - 自那珂郡十郷村字坪ノ内 至縦木峠 道巾四間切込 両側濕拔溝巾五尺深三尺 平均勾配一間に付二寸四分一厘上り
 - 三、一里二町一七間八歩 溪路
 - 自縦木峠 至森橋 道巾四間 平均勾配一間に付一寸二分七厘四毛下ル
 - 四、二一町五三間九歩 溪路
 - 自森橋 至戸川 道巾四間 平均勾配一間に付一寸四分一厘八毛上り
 - 五、二里一五町五三間七歩 山路
 - 自戸川 至県境 道巾三・五間 平均勾配一間に付二寸四分三厘二毛上り
 - 六、一里一九町四四間五歩 平路



昭和41年改修後の縦木峠



昭和37年ごろの縦木峠

この計画で特にすぐれている点は広い道幅である。最小六・三m、最大二一・六mであって、将来の交通量の増加を予期していたことは全く特筆に値する。自動車の無かったこの時代のことを考えるとなおさらのことである。さらに金蔵寺から琴平の入口まで約七kmが一直線になっていることである。

図6 国道、県道図

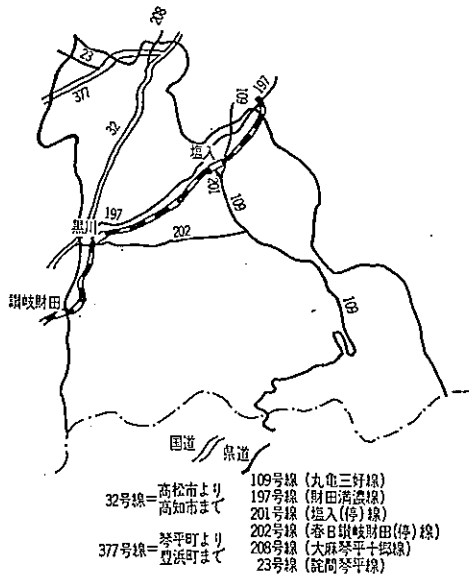


表59 仲南町の県道

路線名	起点及び終点	仲南町内の延長
丸亀三好線 (109号線)	㊤丸亀市中府町1686先 (国道11号線交点) ㊦仲南町大字塩入字一丁八丁 国有林第64林班口小班先	14,240m
財田満濃線 (197号線)	㊤財田町大字財田上字下大口 5621-1先 (国道32号線交点) ㊦満濃町大字長尾字長塚945-1先 (県道坂出貞光線交点)	5,750m
春日讃岐財田停車場線 (202号線)	㊤仲南町大字七箇1584-1先 (県道丸亀三好線交点) ㊦財田町大字財田上字高木7281先	4,447m
塩入停車場線 (201号線)	㊤仲南町大字十郷字帆山180先 ㊦仲南町大字十郷字帆山182先	66m
詫間琴平線 (23号線)	㊤詫間町的場436番地 ㊦琴平町字川西1254番地の2	870m
大麻琴平十郷線 (208号線)	㊤普通寺市大麻町馬場下348番地の1 ㊦仲南町大字十郷字買田南畑 98番地の3	289m

その外屈曲、線形などすべての点において現在の道路建設技術に照らし合わせていささかも見劣りしないということである。

大久保謙之丞は道路工事に反対する農民らに対して、「開拓というものは百年先までの見通しが大切じゃ。ことに道路というものはこれが出ると人間は道路の側に家を建てたがるものじゃ。こうなると改修にも費用がかかり工事も困難さが伴うものじゃ。やがてこの道幅を必要とする時がやってくる。必ずやってくるのじゃ。」と論じた。

こうして明治十九年(一八八六)に着工した讃岐新道は、明治二十年(一八八七)から明治二十一年(一八八八)にかけて多度津く猪の鼻間の讃岐分がほぼ

完工し、人や馬車の通行ができるようになった。そして明治三十三年(一八九〇)三月には、徳島県地内三二kmの工事も終わり完成した。

この讃岐新道は大正八年(一九一九)道路法が制定され、国道三三号線と呼ばれたが、後に道路法の改正によって、昭和二十七年(一九五二)二月五日から国道三三三号線と呼ばれるようになった(仲南町内の延長五一七〇m)。

三三七号線 国道三三七号線は買田地区中手で国道三三三号線から分岐して琴平町に入り再び佐文地区狐師・中筋を通り三豊郡山本町を経て豊浜町に至る国道である。県道琴平豊浜線であったものが昭和五〇年(一九七五)四月一日から国道三三七号線と呼ばれるようになった(仲南町内の延長一九〇五m)。

3 県道

我が仲南町には六つの県道があり、その概況は表59のとおりであり、舗装率は七〇%(昭和五四年四月現在)である。

これらの県道は明治二八年(一八九五)ごろから大正にかけて繰返し改修工事が行われて次第に現在のような道路となった。

丸亀三好線の堀切峠の切取改修工事では「大正八年(一九一九)五月、普通寺工兵隊より将校以下下士卒出張し爆破せり」という新聞記事がある。

また、春日讃岐財田停車場線は明治四一年(一九〇八)一月新目・黒川間の里道改修工事(延長約一四〇間)を手始めに、明治四三年(一九一〇)一〇月には里道久保道(延長約一〇町)の改修に着手して、明治四五年(一九一二)三月竣工した。